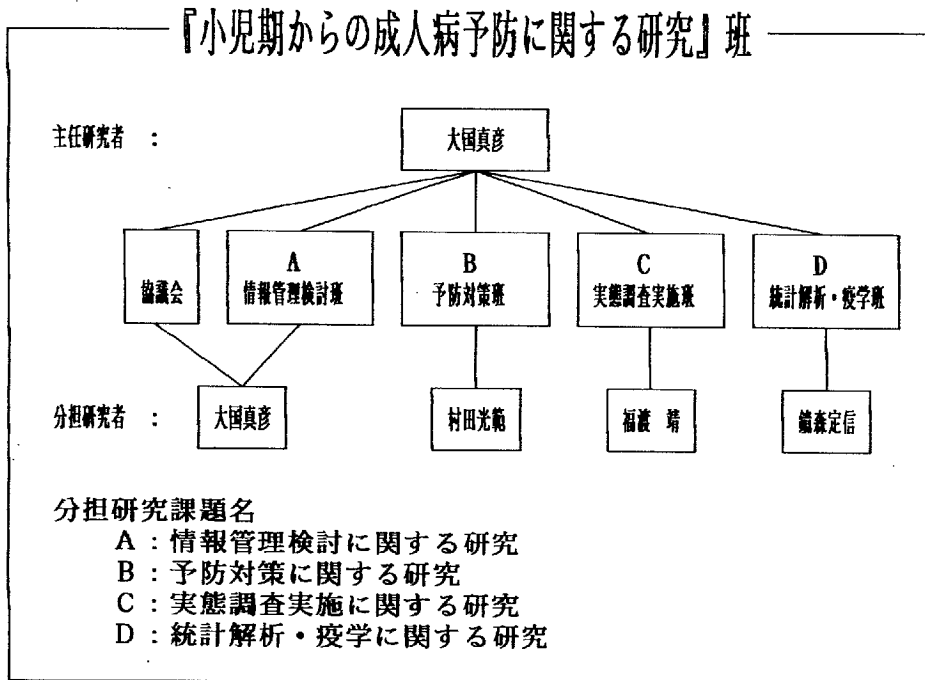


# 序

平成2年度より発足した厚生省心身障害研究「小児期からの成人病予防に関する研究」班（主任研究者：大国真彦）は、分担研究班として「情報管理検討に関する研究」（分担研究者：大国真彦）、「実態調査実施に関する研究」（分担研究者：福渡靖）、「統計解析・疫学に関する研究」（分担研究者：鏡森定信）および「予防対策に関する研究」（分担研究者：村田光範）の4つの分担研究班より構成されており、更に学識経験者による協議会が付置されており、この協議会によりコーホート調査の様式の統一、調査方針などが検討されている。

本報告書は平成4年度に協議会でまとめられた調査様式と各班の成績をまとめたものである。

全体の組織は下図に示される如くである。



今の子ども達は将来の健康が憂慮されているが、その現状が明らかにされつつあり、またその対策についても検討されている。今後の研究の発展が期待される。なお巻末に協議会委員および各班の協力者名簿を掲げる。

< 主任研究 >

主任研究者	主任研究課題
大 国 真 彦 (日本大学)	小児期からの成人病予防に関する研究

< 分担研究 >

分担研究者	分担研究課題 * 研究協力者	期待される研究成果
大 国 真 彦 (日本大学)	情報管理検討に関する研究 * 日比 逸郎 (国立小児病院) * 久道 茂 (東北大学) * 山内 邦昭 (東京都予防医学協会)	各地区の現状が少しずつ明らかにされる。コーホートの調査成績の蓄積が行われる。
村 田 光 範 (東京女子医科大学 第2病院)	予防対策に関する研究 * 岡田 知雄 (日本大学) * 奥野 晃正 (旭川医科大学) * 加藤 裕久 (久留米大学) * 衣笠 昭彦 (京都府立医科大学) * 斎藤 康 (千葉大学) * 関 信義 (秋田県医師会) * 本田 恵 (福岡市立こども病院) * 松田 博 (愛媛大学) * 栗 茂雄 (沼津市立病院)	危険因子の実態の動向、平成元年を基点とする危険因子の縦断的変化、集団及び個人について危険因子を軽減するための効果的な介入方法。
福 渡 靖 (順天堂大学)	実態調査実施に関する研究 * 有坂 治 (順天堂大学) * 大和田 操 (日本大学) * 岡田伸太郎 (大阪大学) * 神谷 齊 (国立療養所三重病院) * 北田 実男 (大阪府立成人病センター) * 柴田 隆 (順天堂伊豆長岡病院) * 住友真佐美 (東京都武蔵調布保健所) * 竹内 宏一 (浜松医科大学) * 西田 美佐 (順天堂大学) * 齋輪 真澄 (国立公衆衛生院) * 森尾 真介 (鳥取大学)	①肥満児対策、肥満予防のための健康生活習慣確立のためのガイドライン。 ②成人病予防のための資料の蓄積。
鏡 森 定 信 (富山医科薬科大学)	統計解析・疫学に関する研究 * 五十嵐正敏 (自治医科大学) * 勝野 真吾 (兵庫教育大学) * 斎藤 友博 (国立小児病院小児医療研究センター) * 中川 秀昭 (金沢医科大学) * 飯田 恭子 (富山県黒部保健所) * 松崎 俊久 (琉球大学) * 村瀬 雄二 (済生会神奈川県川泉病院) * 山上 孝司 (富山医科薬科大学) * 吉田 勝美 (慶応義塾大学) * 吉村 健清 (産業医科大学)  研究協力機関：富山県厚生部、教育委員会、医師会	①コーホート研究の本調査に関しては富山スタディで平成元年生まれの3才児が対象となるため、本年度は前半のデータが得られることになり、今後のコーホート調査の進め方、データの集約方法、アンケート内容等に関して、実地的な面から再確認することになる。他のフィールドはこれまで独自に集約が行われてきたフィールドなので、実地上の問題はないと思われるが、研究の主旨を新たに父兄、教師、本人に理解してもらうことが必要である。 ②本人研究の予備調査に関しては、本人の内容、時期、評価についての試案が蓄積されるものと思われる。 ③その他の研究では、富山スタディでは現在の中学生の健康状態、生活習慣が10年前とどう異なっているかというデータが得られ、家族歴の研究により成人病の発生に占める遺伝因子の割合に対する試案が出されるものと思われる。 ④データの集約・解析のための統一フォーマットが作成され、実態にデータが蓄積される。

平成5年3月

『小児期からの成人病予防に関する研究』班  
主任研究者 大 国 真 彦